

# 建設・土木工事現場で毒ガス弾等の疑いが 持たれる不審物を発見した時は・・・

近年、道路工事現場や建設現場で旧日本軍の毒ガスが入った不審瓶が発見され、作業従事者が内容物に接触等するという事例が複数発生しました。道路工事現場や建設現場等で、毒ガス弾等らしきものを発見した場合は、絶対に手を触れたり、動かしたり、衝撃を与えたりせずに、すみやかに110番や119番に通報するとともに、環境省毒ガス情報センター<☎:03-5521-8263(直通)>にも情報をお寄せください。



毒ガス入りビール瓶を横から撮影した写真

(左:硫黄マスタード 中央:ルイサイト〔写真は液が2層に分離した状態〕  
右:クロロアセトフェノン。瓶の高さは約24cm・直径は約6cm。瓶のラベルは発見後付けられたもので、瓶の口はゴム栓により封がされています。毒ガス入りビール瓶等はすべて国土交通省により安全に無害化処理されました)



毒ガス入りビール瓶の出土状況



建設現場から発見された不審瓶(球状ガラス瓶)

(丸瓶の高さは約9cm・直径は約7～8cm。不審瓶(球状ガラス瓶)はすべて国土交通省により安全に無害化処理されました)



不審瓶(球状ガラス瓶)の出土状況

写真提供(6枚とも):国土交通省

## 毒ガス弾らしい不審物を発見したら・・・

1. 掘削工事で毒ガス弾らしきものや不審物が出土したら絶対に手を触れず、土をかぶせ、110番通報しましょう。
2. 不審物の出土により、異常を感じたり被災した場合には、被災者を風上の新鮮な空気のもとに運び、皮膚に異常がある場合は水で洗い流す等の応急措置をするとともに、すぐに119番通報しましょう。
3. 110番・119番通報のときは、次の内容を伝えましょう。  
いつ、どこで、どのような工事をしているときに、どのような不審物が出土したか。また、どのような臭いがするか。  
被災者や異常をうたえる作業従事者がいる場合はどのような症状か。
4. 110番・119番通報した時は環境省毒ガス情報センター<☎:03-5521-8263(直通)>にも連絡して下さい。

作成 環境省 毒ガス情報センター・協力 建設業労働災害防止協会

## 旧日本軍の毒ガスの種類と特徴

旧日本軍の毒ガスには、下記の図のようなものがあります。これらの毒物が、砲弾や爆弾・瓶・ドラム缶様の特殊容器等につめられています。

種類	名前	におい	性状	急性症状
びらん剤	硫黄マスタード (イペリット)	からし臭	液体から気化する。	皮膚に付着すると1～2時間後に赤い斑点を生じ、痛みを伴うびらんや水疱が出現する。また、目の痛みや充血をもたらす。吸入した時は、のどには刺激症状(刺されるような痛み)が見られ、大量の暴露時には、呼吸困難を引き起こし、死に至る。
	ルイサイト(L)	ゼラニウム臭		
くしゃみ剤 (嘔吐剤)	ジフェニルシアノ アルシン(DC) ジフェニルクロロ アルシン(DA)	無臭だが、時に ニンニク臭や アーモンド臭	固体だが、熱を加えること で微粒子として拡散する。	鼻やのどの痛みとともに、くしゃみ、セキ、吐き気等が生じる。高濃度 では、嘔吐、めまいや腹痛を伴い、呼吸困難等で死亡する。皮膚や眼に 対する刺激症状は少ない。
さいせい 催涙剤	クロロアセトフェ ノン(CN)	りんご花臭	固体だが、熱を加えること で微粒子として拡散する。	眼や皮膚に刺されるような痛みがあり、激しい流涙とともに一時的な失 明状態となる。高濃度では、のどの灼熱感と呼吸困難がみられる。
ちっせき 窒息剤	ホスゲン(CG)	干し草臭	液体だが、空気にふれると ただちに気化する。	眼に流涙や刺すような痛みを感じ、セキと胸部圧迫感がみられる。高濃 度では、のどの痙攣や呼吸困難を引き起こし、死に至る。
血液剤	青酸 (シアン化水素) (AC)	アーモンド臭	液体だが、空気にふれると ただちに気化する。	低濃度では頭痛、動悸、めまい、嘔吐や吐き気が一時的にみられるが、 症状は速やかに回復する。高濃度では意識を失い、呼吸数の減少や呼吸 が浅くなり、痙攣を伴い無呼吸となり死に至る。

(専門家の指導及び「遺棄化学兵器の安全な廃棄技術に向けて」(日本学会議報告・平成13年7月)等より作成)

発見された毒ガス弾等は腐食が進んでおり、原形をとどめていないケースもあります。また、陸上での発見事案では、戦時中、旧日本軍と何らかの関係のある土地で発生したケースが数多く報告されています。



湖沼から発見された毒ガス爆弾  
(全長105cm・中央部の直径約20cm。この毒ガ  
ス爆弾は既に安全に無害処理されています)

写真提供：防衛省



毒ガス貯蔵容器(左・右)と毒ガス撒布用補給缶  
(これらの容器の黄色い塗装は発見後付されたもので、  
現物には塗られていません。左右の容器は高さ約74cm・  
直径約48cm、中央の補給缶は高さ約60cm・直径約20c  
m。中身は空です)

写真提供：防衛省



毒ガス貯蔵容器  
(左の写真にある左側の缶  
と同一物、中身は空です)

写真撮影：環境省  
(缶は大久野島毒  
ガス資料館所蔵)

## 環境省 毒ガス情報センター(環境省環境保健部環境リスク評価室内)

電話：03-3581-3351(内線6334・6342・6345)【月曜日～金曜日/9:30～17:00】

E-mail: [GAS.RISK@env.go.jp](mailto:GAS.RISK@env.go.jp)

国内における旧日本軍の毒ガス問題については、下記の環境省ホームページでも紹介しています。

旧軍毒ガス弾等の対策について [http://www.env.go.jp/chemi/gas\\_inform/](http://www.env.go.jp/chemi/gas_inform/)

パンフレット「毒ガス弾を発見したら...」 [http://www.env.go.jp/chemi/gas\\_inform/pamph/index.html](http://www.env.go.jp/chemi/gas_inform/pamph/index.html)

毒ガス弾等の疑いが持たれる不審物等について [http://www.env.go.jp/chemi/gas\\_inform/pamph2/index.html](http://www.env.go.jp/chemi/gas_inform/pamph2/index.html)